

Finggal Link

Cure Spray Case Report Vol.3

キュアスプレー
ケースレポート Vol.3

化学療法（抗がん剤治療）による皮膚炎に対するキュアスプレーを用いたスキンケアの使用経験例



独立行政法人 国立病院機構
都城医療センター
副看護師長 皮膚・排泄ケア認定看護師
平野 香奈 先生

今回は、キュアスプレー C01（皮膚粘膜治癒材）／（関連特許保持者は同センターの田畑雅士先生）を用いた、化学療法（抗がん剤治療）による皮膚炎の使用経験例のお話をさせていただきました。

はじめに

今回、抗がん剤で生じた皮膚障害（爪囲炎）に対するスキンケアとして、キュアスプレーを使用し、疼痛が劇的に軽減し、日常生活のQOLが改善、向上した症例をご紹介します。痛みの方の強さの評価法として、痛みにより日常生活にどの程度支障をきたしているのかを評価できる FacesRatingScale(FRS) にて5段階評価しました。

各種の抗がん剤による皮膚障害

化学療法（抗がん剤治療）の副作用には、吐き気や倦怠感、脱毛、骨髄抑制、アレルギー反応などがあります。副作用の起こり方は治療開始後数日以内、1～2週間後、それ以降（1ヵ月以上後）に起こるなど、内容によって異なります。

各種の抗がん剤による皮膚障害として、下の表にみるように皮膚の乾燥によるひび割れ・出血、爪の変化が挙げられます。また、分子標的薬といった新しい抗がん剤では、以下の表や図にみるように、爪囲炎、手足症候群などが出やすいことが指摘され、多くの在宅悪性腫瘍患者において日常生活に支障が生じています。

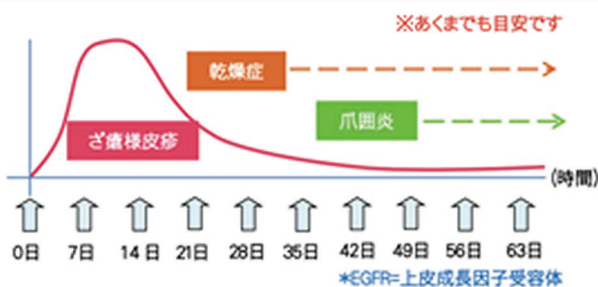
殺細胞性の抗がん剤の皮膚障害

爪の変化	
症状	爪が変色したり変形したりします。また、爪がもろくなる、白い帯状の横断線が現れることがあります。進行すると爪が剥がれてしまうこともありますし、爪の周囲に炎症を起こしたりもします。
患者さんの訴え	爪が変形（凸凹）、爪が欠ける、爪がもげる（痛い）、ボタンかけが痛い、出血する、手に力が入らない、など
病態・原因	爪を作っている細胞は分裂が盛んです。分裂が活発な細胞に影響する抗がん剤によって爪の成長が障害され、もろくなったりすると考えられています。

分子標的型の抗がん剤の皮膚障害

爪囲炎	
症状	爪の周囲に炎症が起こり、腫れや痛みがでて、さらに亀裂を生じ、なかなか治らないと肉芽（にくげ）が形成されます。もろくなった爪の欠損により皮膚を傷つけやすくなります。
患者さんの訴え	ゆび先が痛い、痛くて靴が履けない、ボタンがかけられない字が書けない、携帯のキーが押せない、など
病態・原因	爪の周りに炎症を生じ、紅斑・腫脹、亀裂、肉芽が形成されます。治療開始後1～2ヵ月ごろより出現します。治療抵抗性で長引くことが多いです。

主な症状の経過＜分子標的型の抗がん剤（EGFR*阻害薬）の場合＞



(出典 抗がん剤治療と皮膚障害 静岡県立静岡がんセンター 2021年4月第8版小冊子)

抗がん剤による爪囲炎へのスキンケア

症例：74歳、女性。初発は左側下顎歯肉がん

- ・左側舌に癌再発を認め、シスプラチン（白金製剤）および放射線治療を行う。
- ・約4年後に左側舌に腫瘍再発を認め、免疫チェックポイント阻害薬であるキイトルーダを投与したが、舌の正中を越えるほどとなり、切除不能と診断。
- ・分子標的薬であるセツキシマブ（アービタックス）、パクリタキセルの化学療法を開始。投与開始から2ヶ月後より手や足の指の爪囲炎がひどくなり、手足のびまん性腫脹も認める。
- ・疼痛はフェイススケール：3で、痛みによって日常生活に著しい支障が発生。

▶今回、キュアスプレーを積極的に導入し、抗がん剤による爪囲炎へのスキンケアを行いました。

- ・キュアスプレー散布や手袋による保護で、患者の疼痛が徐々に軽減され、キュアスプレーによるスキンケアはスムーズに継続され、1ヶ月後にはスキンケア終了となりました。

▶爪囲炎の経過

①スキンケア開始前：フェイススケール：4

日中は家事などの水仕事があり、キュアスプレーの散布後、絆創膏で保護。夜間はキュアスプレーの散布後に護綿の手袋（手袋は縫い目があたらぬよう裏返して使用する）で保護。

②スキンケア1週間後：フェイススケール：1～2（刺激すると3）

③スキンケア2週間後：フェイススケール：0～1（刺激すると2）

爪周囲の潰瘍部も創縁から上皮化がみられて縮小傾向、また疼痛も軽減を認めた。

④スキンケア4週間後：フェイススケール：0

爪周囲の潰瘍部治癒。

▶キュアスプレーを用いたスキンケアによる爪囲炎の経過写真

■初診時



■1週間後



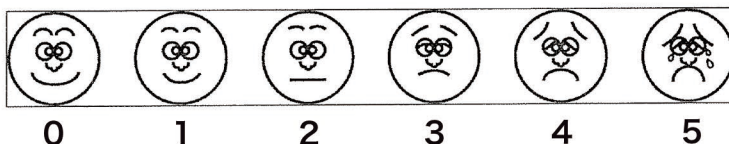
■2週間後



■4週間後



FACE SCALE



0：痛みがまったくなく、幸せである

1：わずかに痛みがある

2：もう少し痛い

3：もっと痛い

4：とても痛い

5：これ以上考えられないほど強い痛み

考察

化学療法の副作用に伴う皮膚障害は、患者にとって日常生活に大きく支障を及ぼすだけでなく、外見の変化がストレスになって気持ちが落ちこんでしまうこともあります。今回の症例でも、爪周囲に潰瘍があり疼痛が強く、日常生活に大きく支障をきたしている状態でした。これに対する一般的治療としては、ステロイドなどの外用剤を使用しますが、治療に難渋し、特に疼痛に苦慮している患者も多いようです。今回、キュアスプレーを散布した症例で、通常ステロイドなどの外用剤や絆創膏などを用いずに、難治性の爪周囲の潰瘍の改善、それに伴う疼痛軽減、日常生活の改善を経験しました。分子標的薬といった新しい抗がん剤にて好発する爪囲炎は、今後の使用頻度の増加に伴い、ますます増加すると考えられます。今回のキュアスプレーを用いたスキンケアは、抗がん剤治療を継続する患者にとって、疼痛を緩和し、日常生活の支障を軽減する有益な結果をもたらしました。

結語

分子標的薬といった新しい抗がん剤に好発する爪囲炎に対して、スキンケアにキュアスプレーを使用した結果、疼痛が早期に軽減し、日常生活動作ADLの向上が得られるという症例を経験しました。

2025年7月 オンラインにて、フィンガルリンク(株)が取材しました。

- ・一施設の事例であり、製品の使用により、抗がん剤による爪囲炎の治療や疼痛緩和を保証するものではありません。
- ・キュアスプレーは(株)キュア薬品の商標です。
- ・製造販売元はキュア薬品、発売元はフィンガルリンクです。

-
- ・一般医療機器 液体包帯
 - ・届出番号：46B3X10006000001／販売名：キュアスプレーCS01（皮膚粘膜創傷治療材）

禁忌 1.使用目的以外の用途で使用しないこと。
2.本剤に配合された原材料に対し、発疹・皮膚炎等の過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと

原材料、用法・用量、保管方法等については添付文書をご参照下さい。